あかれんが

複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL：042-491-4111　http://www.fukujuji.org

【発行責任者】院　長 工　藤　翔　二

巻頭言『MRI検査』

副院長　池　田　義　毅

私は半口開けて「MRIとは？」なる案内板を眺めていた。ここはある病院の一角である。以前から腰痛持ちであったが、我慢できる程度だったので放置しておいたが、ここにきて仕事するのにも歩くのにも苦痛が増してきたので友人の整形外科医に相談し、今日を迎えたのである。

…むむう。

磁気と電波によって水にエネルギーをかける…。それって、電子レンジでチンされるということだろうか？「指輪など金属類はお外しください。」と注意書きがあるのも、電子レンジとアルミホイルの関係を彷彿とさせる。大丈夫なんだろうか。名前を呼ばれた私は、ぴゅーぴゅーと臆病風に吹かれながら入室した。MRIは白くて長くて大きかった。オフホワイトのでかい機械に土管のような筒状の穴が開いていて、その前に寝台が「いらっしゃいませ。こんにちは！」とばかりにスタンバッている。私はTシャツとパンツ姿になり、その上からハッピを長くしたような検査着を羽織った。検査着の下からにょっきり出ている黒い靴下がラブリィだ。寝台におずおず近づくと、看護師さんが「あ、これを…」と何かくれた。…なにこれ、耳栓？「こちらの機械、検査中うるさいんで、これを入れてください。入れても結構うるさいんですけどね。」看護師は、あははと笑った。つられて私も、ははははと笑った。

耳栓を入れると看護師さんがうれしげに「どうですか？」と聞いてくる。思ったよりもちゃんと聞こえるので、笑顔でうなずき返した。看護師さんとの友好度はアップしたが、耳栓への信頼度はダウンした。寝ると、おでことあごの部分がベルトのようなもので固定されてしまった。捕まった宇宙人の気分だ。いよいよ検査開始。寝台がスルスル白い穴に近づいていく。♪♪たったかたーたったかたー　私は頭の中で「宇宙戦艦ヤマトのテーマ」を鳴り響かせながら、MRIの穴の中に入っていった。

（せまっ！）

MRIの内部に入った私の感想である。想像以上に狭い。お相撲さんは入れないかもしれない。鼻先５センチくらいのところに天井がある。ものすごい圧迫感。閉所恐怖症の人間には到底耐えられないだろう。「はい　それじゃあ検査始めますよ～。」と筒の中にあるらしいスピーカーから技師さんの声が聞こえる。「もし気分が悪くなったら、これを握ってください。」とゴム製のレモン形のものを、右手につかまされた。わかりやすく言えば「カエルがぴょんと跳ぶおもちゃのしゅぽしゅぽ部分」である…これを握るとどのようなことが起こるのだろう？まさか「握ると安心」という癒し系グッズではあるまい。

ガンガンガンガンガンガンガン。

ごいんごいんごいんごいんごいん。

ガッガッガッガッガッガッガッ。

…なるほど、看護師さんの言葉は正しかった。とてもうるさい。工事現場の金属管に潜り込んで出られなくなった猫の気分だ。15分ほどのヘヴィメタルな時間が過ぎた後、突然音が止まった。スピーカーから技師さんの声。「いったんお休みしますね。楽にしてくださーい。」いや、そんなインターバルいらんから。ぎちぎちの筒の中に「気をつけ」の姿勢で入れられて、おでことあごをベルトで固定されて、鼻の頭をかくのを我慢している男に、どういう顔をして「楽にしてくださーい」と言っとるんだ、あんたは。

検査再開。

ガッガッガッガッガッガッ…

ゴンゴンゴンゴンゴンゴン…

ごいんごいんごいんごいん…

「はい、おわりでーす。お疲れ様でしたー。」技師さんの声に私は、はっと我に返った。自分でも信じられないことだが、私は寝ていた。あの状況下で。人間の適応性というのは、げにすばらしいものである。

足にかけたタオルケットをとると、私はびっしょりと汗をかいていた。それこそ湯気が出るくらいに。やっぱりこれ、電子レンジだ。

私は腰痛も忘れて、ぐったりして家路を急いだ。

2012年 端宝中綬章受賞

結研付属療養所と私の思い出

複十字病院顧問 荒井 他嘉司

私が初めて清瀬の結核研究所付属療養所を訪れたのは昭和24年春でした。武蔵中・高等学校在学中、肺の小さな石灰化巣のために健診毎に結研に呼ばれて清瀬へ通いました。当時は学校のある江古田も寂しい町でしたが、そこから単線の電車に揺られてやっと清瀬駅に降り立つと、改札は北口にしかなく、駅前は藁葺きの一軒家のみの林野でした。踏切を南に渡り松林の小径を松韻を聞きながら平屋の療養所へと向かったものでした。中学時代から医者を夢見ていた私は東北大学卒業後、東北大学抗酸菌病研究所からの派遣で、昭和38年結研付属療養所外科での４ヶ月間の研修を受ける機会に恵まれました。この時、駆け出しの私は亡き塩澤正俊先生をはじめ、木下、吉田、安野先生など諸先輩に結核外科を学び、良い思い出を抱いて仙台に戻りました。大学院終了後、塩澤先生からの要請もあり結研付属療養所外科への就職を主任教授に申し出ましたが許可が得られず、半ば破門の形で大学を去りました。清瀬に就職する前６ヶ月間、大学の命で静岡県立富士見病院に勤務、結研出身の院長山下英秋先生、外科医長岩間先生の下で結研の気風に触れました。ここで肺区域解剖学の創始者として高名な山下英秋先生に出会い、その後も長く教えを授かったことは呼吸器外科医の私にとって大きな宝となりました。

昭和41年夏から９年間、ついに念願の結研付属療養所外科に勤務することになりました。当時はまだ肺結核の手術数も多く、沢山の若手外科医が塩澤正俊先生を慕って集まり、後の癌研有明病院長の中川健先生、北里大学教授の吉村博邦先生、そして結核予防会理事長の長田功先生などと一緒に働けたのは楽しい思い出となりました。結研ではWHOから毎年５人の海外外科研修医を引き受けており、術前検討会、回診、講義は全て英語。私は９年間その世話係りを命ぜられ、英語漬けの毎日でした。JICAと結研がインドネシア大学に肺外科を開設するプロジェクトを計画、1970年トップに私は塩澤先生とジャカルタに長期滞在、現在のインドネシアにおける肺外科の芽を植え付けました。現地の医者との交流は今も続いています。

しかし、当時は肺結核患者の入院は減りつつあり、病院の将来を憂うる時代でもありました。そこで増えつつある肺癌に取り組むこととなり、大学で肺癌の研究をして来た私に肺癌病棟を立ち上げるようにとの要請がありました。しかし、結核病棟の一部を肺癌病棟に変えるには、感染症の中での癌患者の住み分け、看護の重度化への対応など多くの課題がありました。また、結核療養所という看板の下での癌の診療は社会的に難しく、せっかく診断しても患者は癌研や国立がんセンターへの転院を希望し、専門病院でない悲哀を味わいました。その克服のため、私は年数回開かれる肺癌学会地方会に毎回演題を出し続け、結研に肺癌ありという世間の評価を勝ち取りました。

建物の老朽化は深刻で、400メートルの長い中央廊下は歩くたびに軋み、床板に出来た穴には竹箒が逆さにたててあったり、オペ室では窓の隙間から入ったハエを看護師がハエ叩きを持って追い回す光景なども日常茶飯事でした。病院の赤字は増える一方で、土地の売却が始まりました。まず12病棟南の運動場が売却されて小学校が建ち、次いで松林が売却されて市立清瀬高校が建つなど縮小ムードを目の当たりにして、私は昭和50年に国立療養所中野病院に転職しました。その後、結核予防会は自らの努力で療養所から立派な病院へと転換した姿をみて私は、再建前に去ってしまったことに自責の念を感じざるを得ません。国立病院退官後のいま、私を育ててくれた古巣に再度呼んで頂いたことに感謝するとともに、少しでもご恩返しが出来ればと願っています。

ギリギリの美学

彫刻家　～中久木秀一～

当院の庭の彫刻を皆さんも目にしている事と思います。作者は中久木秀一、東京芸術大学及び大学院の彫刻科を卒業され、石の彫刻一筋に人生を歩んでこられた方です。その作品はギリギリまでに簡素化され、美しい曲線が特徴です。抽象と具象のせめぎ合いの中でのバランスは見事と言うしかありません。

謙虚な先生は「木彫みたいに克明にディテールを構築する技量は持っておりませんし、素材が石では細かい所まで彫る事は出来ませんから」とおっしゃっておりましたが、作品ひとつに早くて半年、中には一年もかかるものもあるとか、中々根気が必要とされる仕事であります。

作品完成真近で意に反し割れてしまう事もあるそうで、何箇月もの努力が一瞬にして無に帰すのです。傍らの奥さんが「その時でもあなたは癇癪を起こさず、怒りもせず、淡々としていますね」と言葉を投げかけたところ先生は「まあ、自分が悪いのだから怒ってみても仕方ありません」とニコニコ顔で答えられておりました。奥さんは出会って以来、先生の怒ったところを見た事がないそうです。そうなんです、先生の作品からは本当に優しさが溢れ出ており、作品を鑑賞する際に受ける感覚が「優しさ」なんです。筆者が先生の「うずくまる猫」という作品に接した時、大げさに言うならばフリーズしてしまいました。“猫”自体の作品の素晴らしさもさることながら、「うずくまる猫」が優しい言葉を投げかけてくれるのです。勿論現在その「猫」は筆者の家の玄関前にて来客の皆様に「優しさ」と「やすらぎ」を与えてくれています。

先生の作品は見る人々に声を掛けてくれます。落ち込んでいる時は励ましを、嬉しい時は共感を、迷っている時は決断を、まさに芸術の真髄です。当院には以下の作品がありますが、皆さんもその作品と一度対話してみませんか？

「母子像１」左上：子を思う母の愛は世界共通です。像のディテールは定かではありません
故にその表情を想像する権利を私達に与えてくれます。母は何を子供にかけているのでしょうか？（平成25年度　一元会展出品作品）

「母子像２」右上：子を背負う母、母？もしかしたら祖母かもしれません。女性は男性以上に色々なものを背負っているものですね。

「　和　」中：「和」は“なごみ”、“たいら”ななごみならば“平和”。お互いがお互いを信じ、信頼しあい尊敬し合う。簡単なようで難しい事です。

「四方地蔵の水盤」右下：水盤の足元四方にお地蔵さんが彫ってあります。四方に目を光らせ、衆生の幸福を願う水盤であります。

他に風神像などが当院に寄贈されております。現在庭園を造成中ですが完成致しましたら展示の予定です。

因みに中久木先生の奥様は工藤院長の妹さんで一昨年の３月まで神奈川フィルハーモニーのヴァイオリン奏者として活躍されておりました。

第8回　院内発表会

実行委員長　吉山　崇

2012年12月22日、第８回院内発表会が結核研究所４階講堂にて行なわれました。13時から18時３分まで37演題が各職場、委員会から口頭発表され、活発に質疑応答が行なわれました。また、約１時間、安全管理室の主催により、宮崎先生による「終末期、告知と鎮静の問題点について」庶務課瀧口さんによる「基本的な消火設備概要（消火器、消火栓、スプリンクラー等の説明）」という教育講演が行なわれこちらも多様な質疑応答がありました。また、研究所１階エントランスで放射線防護委員会の掲示を行ないました。37演題のうち、優秀発表として、機材購入において入札という競争原理が働くことの重要性を指摘し、そのために必要な事項を指摘された「備品購入における入札の役割」（器材委員会、経理課　荒井友範）、歩行機材の違いがビビッドにわかる「歩行能力と歩行補助用具選定について（一症例を通じて）」（リハビリテーション科　桑原陽子）、当院でも多くみられる誤嚥性肺炎に対して、口腔訓練による発病予防について、今後の成果も期待できる「高齢者への口腔機能訓練を試みて―パタカラ体操の効果―」（2C 大場とし子）、これまであまり当院でも研究発表の無かったエンジェルケアの分野に一石を投じ統一した方法を提案し今後の病院業務の改善に役立つであろう「エンゼルケアの現状と見直し」（３A 渡邊一恵）、検査の偽陽性と偽陰性のバランスの重要性を指摘した「二期的から一期的センチネルリンパ節生検（SNB）に向けたOSNA（One-step Nucleic acid Amplification）法の導入」（乳腺科　武田泰隆）の５題が選ばれました。

今回はこれまでの発表での時間の短さに対して、発表を絞ることにより１題発表時間を４分に延長し充実した内容となったと思われます。参加者は、複十字病院各職員のほか、予防会本部の島尾評議員会会長、長田理事長、他の皆様、新山手病院江里口院長、荒井他嘉司先生、他の皆様がこられていました。今回の発表会が盛会に行われるにあたっては、正確に時間を守られた37名の発表者の各位、座長の労を取られた８名の方々、優秀発表の審査にあたられた９名の方々、発表会各係の責任者および各係の方々、特にプログラム係として目を配っていただいた内山先生にお礼申し上げます。

ベストドクターズ紹介

ベストドクターズ™選出の仕組み

ベストドクターズ社の名医選出方法は非常に単純です。

膨大な数の医師に対して、「もしあなたやあなたのご家族が、あなたの専門分野の病気にかかった場合、どの医師に治療をお願いしますか」とアンケートします。その中で治療能力、研究成果、最新医療情報への精通度などを考慮した上で、ある一定以上の評価を得た医師（それぞれの国での医師全体の上位１～５％程度）を名医（BestDoctors™）と認定します。

これは、米国の一流企業や一部の日本企業で、取り入れられている人事評価制度（ピア・レビュー）の仕組みと同様で、これを医学界という途方もなく広い範囲で行っています。

現在までで全世界で延べ100万人におよぶ医師にこの質問を繰り返し、40以上の専門分野、400以上の副専門分野から、米国で約30,000名をはじめとして世界中で50,000名以上を名医と認定しており、日本でも約2,400名を名医と認定しています。

この調査は、専門分野ごとに９～12ヶ月にわたっておこなわれ、名医のデーターベースは随時更新されます。常に医療の最前線活躍している、経験豊富な医師のみが登録されています。

院長　工藤　翔二

この歳になってベスト・ドクターと言われてもねぇ…。正直そんな思いです。でも、臨床一筋、一生現役の証しかと。なによりも、複十字病院に６名ものベスト・ドクターが居ることが、院長として嬉しくもあり、誇りでもあります。

呼吸器センター長　白石　裕治

この度Best Doctors in Japan 2012-2013に選出されました。2008-2009、2010-2011に続いて３期連続の選出です。今後も患者様の期待に応えられるよう精進する所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

診療主幹　佐々木　結花

ベストドクターに選出されたことは名誉であり、また重責でもあります。2009年に最初に選出いただいき、大変驚き、嬉しく思った反面、傲慢にならないよう気を引き締めました。私の専門は結核、非結核性抗酸菌症を中心とした呼吸器感染症ですが、呼吸器疾患全てに学びの気持ちを忘れず診療していきたく存じます。今後ともよろしくお願いいたします。

臨床研究アドバイザー　倉島　篤行

診療アドバイザー　工藤　宏一郎

乳腺センター長　武田　泰隆

Doctor A la carte

new! 新医師の紹介

山名（やまな） 一平（かずなり）

●配属先／呼吸器センター 呼吸器内科
●出身地／東京都新宿区

【趣味及び特技】
トライアスロン
【好きな言葉】
為せば成る
【認定医登録】
内科認定医、がん治療認定医
【専門分野及び ご紹介して頂きたい症例】
肺癌
【メッセージ】
よろしくお願いします。

片岡（かたおか） 功（いさお）

●配属先／消化器センター 消化器外科
●出身地／神奈川県川崎市

【趣味及び特技】
スノーボード、ジョギング（予定）
【好きな言葉】
早起きは三文の得
【専門分野及び ご紹介して頂きたい症例】
消化器外科修行中
【メッセージ】
一生懸命頑張ります。
よろしくお願いします。

渡邉（わたなべ） 雅人（まさと）

●配属先／呼吸器センター 呼吸器内科
●出身地／新潟県新潟市

【趣味及び特技】
趣味は旅行、特技はスキーです
【好きな言葉】
一意専心
【認定医登録】
呼吸器内科専門医、内科認定医
【専門分野及び ご紹介して頂きたい症例】
呼吸器内科一般、びまん性肺疾患
【メッセージ】
患者さんに寄り添う医療を旨に頑張ろうと思います。
どうぞ宜しくお願いします。

辻（つじ） 晋吾（しんご）

●配属先／呼吸器センター 呼吸器内科
●出身地／東京都三鷹市

【趣味及び特技】
音楽鑑賞、楽器演奏
【好きな言葉】
一期一会
【専門分野及び ご紹介して頂きたい症例】
呼吸器内科
【メッセージ】
笑顔をモットーに頑張ります。
よろしくお願い致します。

大澤（おおさわ） 武司（たけし）

●配属先／呼吸器センター 呼吸器内科
●出身地／神奈川県横浜市

【趣味及び特技】
テニス、クラシック音楽
【好きな言葉】
学而時習之、不亦説乎
【専門分野及び ご紹介して頂きたい症例】
呼吸器疾患全般
【メッセージ】
「呼吸器が専門」と自信をもって言えるよう勉強させていただきます。

COPD（慢性閉塞性肺疾患）という生活習慣病

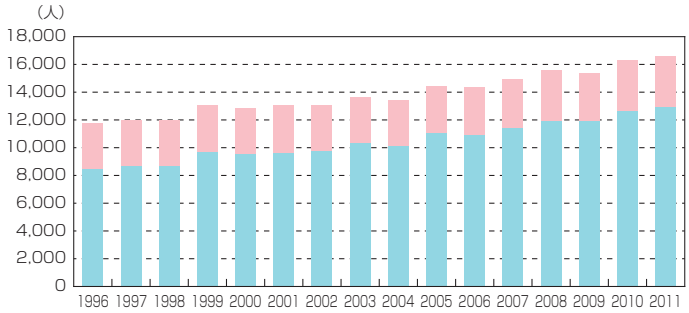
呼吸ケアリハビリセンター　**吉田　直之**

わが国では、がん・循環器疾患・糖尿病の３疾患が生活習慣病として位置づけられていましたが、2012年度に慢性閉塞性肺疾患（chronic obstructive pulmonary disease：COPD）が加わり４疾患となりました。COPDは「喫煙」という生活習慣により生じる慢性の炎症性肺疾患で、症状としては徐々に進行する息切れと慢性の咳・痰が特徴です。疾患の発見が遅れることで息切れが強くなり、生活の質（QOL）が悪化します。更に、増悪による呼吸機能の低下と虚血性心疾患などの併存症により生命予後も悪化します。COPDの進行を抑え、患者さんのQOLと生命予後を改善させるためには疾患の早期発見・早期介入が必要です。

わが国において、2011年のCOPDによる死亡者数が16,639人で、その数は年々増加しています（図）。死亡順位は2009年10位であったのが、2010年には９位（男性では７位）となりました。2000年の日本における40歳以上のCOPD有病率は8.6%、患者数は530万人と推定されており、10年以上が経過した今、患者数は更に増加していると考えられます。それに対して、2011年の厚生労働省の調査によると医療施設で実際に治療を受けているCOPD患者さんは約22万人です。この数字は、COPDの診断が正しくなされておらず、大多数の患者さんが適切な治療を受けていないことを示しています。言い換えれば、COPDは早期に発見して重症化を防ぐ必要があるにもかかわらず、日本では早期診断が進んでいないのが現状であるということになります。

この背景には日本でのCOPDに対する社会的認知度の低さ（2011年の調査で25%）があります。厚生労働省は、2012年に「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第二次））」の目標として2023年度までにCOPD認知度を現在の25%から80%に上げることを掲げ、COPDの早期発見・早期介入を促進するため国を挙げて認知度向上に取り組む方針を打ち出しました。複十字病院呼吸ケアリハビリセンターでは、2009年６月の開設以来、COPD患者さんに対して疾患の２次予防（疾患の進行抑制、増悪予防、生命予後の改善）と３次予防（息切れの軽減、運動耐容能およびQOLの改善）を目的に、入院と外来で包括的な呼吸リハビリテーションを行ってきました。しかし、私どもが介入した患者さんの大部分は気流閉塞が重症のCOPDです。今後は、COPDの早期発見・早期介入に対してより一層の力を注いでいきたいと思います。

図：日本におけるCOPD死亡者数



（出典：厚生労働省　人口動態統計2011年）

がん患者の周術期口腔機能管理（その２）

歯科　**石黒　和夫**

以前、第97号あかれんがにて一度お知らせいたしましたが、歯科において周術期口腔機能管理を開始いたしました。くり返しになりますが、再度ご説明いたします。周術期というのは聞き慣れない言葉だと思います。周術期とは手術の時期の周りということで、手術の術前、術中、術後全部の事です。昨年の診療報酬改定で、周術期の口腔機能管理に初めて診療報酬点数がつきました。すなわち、手術患者は（今回の対象患者はがん患者のみ）オペの前後に歯科に行って、検査、口腔清掃、衛生指導を受けて下さい、それを保険診療の対象としましょうという事です。これが保険に導入された理由はまず一点、入院患者はどうしても口腔清掃がおろそかになり、高齢者の場合誤嚥性肺炎の危険が高まります（口の中が汚ければ、気管から細菌が入って肺炎になりやすいのは当然のことです）。それを防ぐため。それと大きな理由はもう一点、がんの抗がん剤治療や放射線治療はがん細胞を破壊するための治療ですが、同時に正常な細胞にもダメージを与えてしまう副作用が現れます。口腔内におこる副作用には口内炎、口腔乾燥ほかいろいろな障害が現れ、重症化するとがん治療そのものを延期したり中止したりすることになります。しかし、がんの治療前から正しいお口のケアを行うことで、このような副作用を予防し、症状の悪化を小さくすることができます。

以上の経緯から、これからがんの手術をうける方は主治医と相談して依頼書を書いてもらい、前もって歯科受診をしてみて下さい。（もちろん歯科受診は強制ではありません、念のため）歯科では下記ような事を行う予定です。

歯科で行う主な内容

❶お口の中の検査
虫歯、歯周病、入れ歯の状態などを調べます。

❷歯科治療
虫歯や歯周病があれば治療します。（期間がない場合応急的処置になります）又、問題を起こしそうな歯を抜く時もあります。

❸口腔清掃
プラーク（歯垢）や歯石を除去し、専門の器具を使用して歯の表面をみがきます。

❹セルフケア指導
効果的な歯磨き方法、保湿ケア、入れ歯のお手入れ方法、口腔ケアグッズの選び方などを指導します。

今回の保険導入の対象患者は、がんの手術患者、がんの抗がん剤治療や放射線治療を受ける患者のみです。将来的には、がん以外の手術を受ける患者にも対象が広がる事を期待しています。

複十字病院理念

私たち複十字病院の職員一同はこの理念を常に念頭において研鑽し、努力いたします。

1．私たちは患者さま中心の医療を行います。
2．私たちは皆様の健康を第一に考え、人格を尊重し、プライバシーを守ります。
3．私たちは開かれた、信頼感のある医療と温かい看護を提供します。
4．私たちは最新で最良の医療を提供します。
5．私たちは地域の医療、保健、福祉に積極的に参加します。

●複十字病院の基本方針●

1．一般急性期病棟と療養型病棟の複合型病院として、高齢化する地域社会に貢献するとともに関東ブロックの結核拠点病院として結核予防会の使命を果たす。
2．複十字病院登録医会を中心として、病診、病病連携を推進し地域医療に貢献する。
3．職員教育を充実させ、患者さまへのサービスと医療の質的向上を図る。
4．在宅医療、救急医療の充実を図るとともに、検診事業の内容を発展させ新しいがん検診システムを構築する。
5．院内、院外の情報システムを充実し、地域社会に積極的に参加する。
6．職員の原価意識を高め、健全な病院経営を行う。
7．患者さまは年齢、性別、地位に関係なく充分な説明に基づいた治療を受け、第三者の意見を聞き、診療情報の開示を求める権利を有する。
8．危機管理を充実し、医療事故防止に努める。

人　事　異　動

2012年12月15日～2013年3月14日まで

【採　　用】

（看　護　師）	沼　田　陽　子	1/21
（看　護　師）	鳥　養　企美子	2/15
（看　護　師）	関　川　実　咲	2/18

【退　　職】

（医　　師）	田　中　規　幹	12/31
（看　護　師）	本　田　なぎさ	12/31
（臨床検査技師）	嘉　村　勇　樹	12/31
（看　護　師）	小檜山　祐　子	1/31
（看　護　師）	河　野　和佳那	2/24

行　事　予　定

1．複十字病院新人オリエンテーション
日　時▶2013年4月3日（水）13：30
場　所▶複十字病院　講堂

2．ほろよいず　春のコンサート
日　時▶2013年4月17日（水）19：00
場　所▶複十字病院　新外来待合

3．院内総合防災訓練
日　時▶2013年5月22日（水）
15：00（予定）

4．登録医会第11回総会
日　時▶2013年7月13日（土）（予定）
場　所▶結核研究所　講堂

学会報告会開催

2013年3月13日（水）午後5時半より当院講堂において、教育委員会主催の「第10回学会報告会」が行われました。
講師及び演題は下記のとおりです。

1．「機器が使用出来なくなったらを考える」　中央材料室主任　**保坂　和恵**
2．「MDR患者の環境と今後の課題」　4A病棟師長　**井上恵美子**
3．「感染制御チームによる抗菌薬ラウンドの効果」　薬剤科　**鈴木　裕章**
4．「ベースライン第二世代クオンティフェロンTB陽性者における発病の危険についての検討」　診療主幹　**吉山　崇**

清瀬地区学術講演会開催

2013年3月14日（木）午後7時より結核研究所講堂において、ノバルティスファーマ（株）共催、複十字病院登録医会後援「清瀬地区学術講演会」が開催されました。当日は50名余りの方がご参集くださり、盛会に終了いたしました。
演題及び演者は下記のとおりです。

「呼吸器病変を来たすリウマチ性疾患について
～関節リウマチの診断・治療・最新のいろは～」
演者：杏林大学第一内科　腎臓・リウマチ膠原病内科　教授　**有村　義宏** 先生

工藤院長が表彰されました!!

当院工藤翔二院長が東京消防庁消防総監より感謝状が授与されました。
おめでとうございます。

編　集　後　記

桜という身近な植物は、古くから櫻と書いた。嬰は倭小であることを示し、櫻とは桃に似た小さい実をつけることから名付けられた。赤い小さな実が、清々しさを伴った桜花を現すには、桜の成長と僅かばかりの世話がいる。日々の成長は変わり映えせずとも、一年後には立派な花を咲かせることを、皆心待ちにしている。（小出）

表紙の写真

秋篠宮両殿下の“しだれ桜”
4月初め、南館の廊下の外を見ると、両殿下がお手植えになった“しだれ桜”が満開である。遠景も素晴らしいが枝の一つ一つも美しい。玄関前の水仙“プリンセス・キコ”と同時に花を咲かせるのが嬉しい。（翔）